

萩の箸百膳

今坂柳二

この間、わしが話したのは、虫歯にかかった村中の子ども達に代って、一生懸命ほつぺた撫でてる仏様の事だったが、どうだ皆さん、覚えてるかな？ なになに、いい話だったんでよく覚えておりますっておっしゃるか。ありやありや、ほんとですかい。あんなに誉められちゃあ、わしらも語りに力が入りますなあ、ありがたい、ありがたい、ありがたい。

わしが住んでる町にギオンちゅうところがありましてな、ここに加賀の白山から分社してお迎えしたシラヤマさまがおります。祭神はシラヤマヒメのミコトと申します。言わずとも「白山(シラヤマ)比咩(ヒメ)」は姫(ヒメ)でございます、そのうえ、たいそうなベツピンさんだったとやら。

その頃のわしら、歯磨きなんかする者一人だっておらんかった。痛いなんて言おうもんならこう言われる。「虫歯は病気なんぞじゃねえぞ。誰だつてなるんだ、日本の男の子だったら泣くんじゃねえ」んで、よくしたもんさ。わしらがサヤマちゅうところには、神さま仏さまがなんぼでもいさっしゃる。家ん中にも道っ端にもおいでだ。んでよ、中でも虫歯なら、あんつつたつてギオンの白山さまが一番じゃつて噂だった。

とはいえ、姫さまは神さま。もし行かれるなら手順がありますぞ。なに、むつかしいことじゃねえさ、おめえさまだつて七草の歌、知ってるべえ？ 「ハギ・オバナ・クズにナデシコ・オミナエシ・フジバカマ、またアサガオの花」このハギさ。裏山でその萩を刈り、箸ほどの長さに折る。二本で一膳を百人分こさえるんじゃ。なに、むつかしいことねえよ、山に行けば、なんぼでもあるんだ。

さて、お九んちの晩。息子を連れて白山参りに行かっしやれ。花火が夜空を染める、太鼓が闇をゆさぶる、お焚あげの火がパチパチとはねる。そんな中へ萩のお箸を投げ込むんじゃ。

「おらの虫歯、よく治りましたよう」

そんな子どもの声が白山の森から聞こえますそう。

いまさか りゅうじ

狭山市笹井在住。二十四歳から俳句に関わって、現在同人誌「つばさ」代表。かたわら、昔ばなしの採集・採話を続け、「龍じいの昔ばなし」以下十冊発行。

編集後記

市民芸術祭が成功裡に終り関係者一同安堵。「広報さやま」で数ある舞台から春の合唱(民謡千寿会)と踊り(狭山市民踊連盟・春を踊る会)が掲載、私も写ってました。

各公民館が耐震工事等で休館、会場探しも一苦労、富士見(集)も長期休館となる計画有り。文団連も我が民謡教室も困ります。安全のため、インフラ整備に多額の費用で行政も大変でしょう。

東京では桜が3月21日に開花しました。

4月1・2日の「桜まつり」好天を祈りましょう。

(高沢正夫)